

平成29年度企業会計決算認定特別委員会

平成30年10月12日（金）

〔委員会の概要 企業局関係〕

寺井委員長

ただいまから、企業会計決算認定特別委員会を開会いたします。（10時33分）

直ちに、議事に入ります。

これより、企業局関係の審査を行います。

企業局関係の付託議案については、さきの委員会において説明を聴取したところであり、直ちに質疑に入ります。

質疑をどうぞ。

南委員

電気事業会計についてであります。キャッシュ・フロー計算書で見ると、減価償却費6億4,000万円に対して、今年度の有形固定資産の取得による支出が8億5,000万円という中で、当然利益もありますから資金に余裕があるのでしょうか、減価償却より大きい有形固定資産の取得は今後も続く予定なのでしょうか。

栗田経営企画戦略課長

減価償却費、有形固定資産の状況について御質問を頂きました。

平成29年度につきましては電気事業会計では6億4,200万円の減価償却費がございました。

減価償却費につきまして、これまでの流れで申しましたら、例えば10年前、平成20年度につきましては5億8,500万円、そして平成25年度は5億9,500万円、6億円ぐらいで推移している状況でございます。

一方、先ほど御指摘いただきました有形固定資産の取得で8億円を超える金額、これは主なものに昨年度工事を行いました坂州発電所の大規模改良工事に伴う資産の増がございます。

今後、改良工事等を行ってまいりましたら、資産の増というのは当然出てくるわけですが、それを加味した今後の減価償却費の推移につきましては、向こう10年ぐらいは平均6億4,000万円ぐらいで推移していくのではなかろうかと考えているところでございます。

南委員

機械装置は減価償却が短いと思いますが、ダム等は減価償却が長いという中で、資金繰りを長い目で見てもかかると厳しいと思うわけです。そういう中で当面の間、減価償却費が6億4,000万円ぐらいで、それをこのところ利益が出ている中で、当然、全額償却し、それを基に新たな設備投資をやっていける。ただ、今年の場合は少し増えているが、今後は当然少なめでいき、また大きな設備投資があるのかとは思いますが、電気事業会計は、好調な決算で徳島県政のために非常に役立っているという中で、利益と減価償却を超える

ような設備投資が重ならないよう、今後も投資計画を長い目で見て新たな修繕や改修を考  
える中でじっくり計画してやってほしいと思います。

原井委員

昨日、一通り御説明いただいた中で、気になった所だけ簡単に質問させていただきたい  
と思います。

駐車場事業会計でございますが、藍場町地下駐車場と松茂駐車場、それぞれどれぐら  
いの駐車台数があるのかまず教えてください。

川口経営企画戦略課政策調査幹

駐車台数でございますが、藍場町地下駐車場は295台、松茂駐車場は230台ございま  
す。

原井委員

分かりました。それで、平成29年度の決算を見ておりますと、松茂駐車場は好調で、藍  
場町地下駐車場が普通に駐車される分と定期駐車を含めた合計で前年度より1万994  
台減少しているという結果になっております。1万台減少していると聞いたらすごい数だ  
と思ったのですが、減った要因というのは何か分析されていますか。

川口経営企画戦略課政策調査幹

平成28年度から平成29年度にかけてまして藍場町地下駐車場で1万994台の減少となっ  
てございます。

これにつきましては、企業局としましては、昨年4月、徳島市内で大型商業施設が開業  
されました。これが少なからず影響したものと考えてございます。

その他にも、あわぎんホールの利用者も減少しているなど様々な要因が複合的に影響し  
たものではないかと考えてございます。

原井委員

分かりました。恐らく新しくイオンモールができたり、藍場町近辺でのイベントや複合  
的な要素が関わって減っているのだらうと思いました。

これで質問は終わるんですが、依然、収益性が良く、過去5年の資料もを見せていただ  
いた中で非常に好調であると認識をしておるところでございますが、その点、いろいろな経  
済的な面や周辺のあらゆることを考慮しながら、今後も安定した運営をしていただきた  
いと思います。

眞貝委員

さきの9月議会におきまして、私の一般質問の中で工業用水道の防災力強化について質  
問させていただきました。

局長から耐震化・老朽化対策に加えて、事前復興の取組を積極的に推進するという御答  
弁を頂きました。

事業を計画的に進めるには、工業用水道の健全な経営が前提となると思います。昨日の説明の中におきましても、平成29年度の決算では、工業用水道事業をはじめとした4事業とも全て順調に利益を上げているということでありました。中でも工業用水道事業につきましては2億6,500万円余りの純利益が出ておるようでございます。過去の収支状況を見ましても平成26年度以降、2億円を超える純利益を上げているようであり、健全な経営ができていると思っております。

今年度は、6月の大阪府北部の地震に始まりまして、西日本豪雨また北海道胆振東部地震等、度重なる自然災害が発生しております。

徳島県におきましても、南海トラフ巨大地震が近々起きるのではないかと危惧されておるところではございますが、そこで、まず工業用水道の耐震化対策の進捗状況についてお聞かせいただきたいと思っております。

#### 古井施設基盤整備室長

工業用水道施設の耐震化の進捗状況について御質問を頂きました。

企業局が管理しております工業用水道施設は、古い施設で昭和43年に設置されており、施設の老朽化が進んでおりますことから、現在、計画的に老朽化対策を進めているところでございます。

また、近い将来発生が危惧されております南海トラフ巨大地震をはじめとする巨大地震に対する耐震化につきましても、老朽化対策とともに計画的に進めているところでございます。

これまでの経緯でございますが、平成18年度までに企業局が管理しております工業用水道施設の建築物8施設及び土木構造物11施設の耐震診断を実施いたしまして、その内、耐震対策が必要とされた施設について、平成20年度から耐震補強工事を行ってきたところでございます。

管理本館などの人が出入りいたします建築物につきましては、平成22年度までに耐震化を完了しております。

また沈殿池や水管橋などの土木構造物につきましても、平成29年度までに耐震化が完了したところでございます。

一方、工業用水道の埋設管路につきましては管路延長が吉野川北岸工業用水道と阿南工業用水道、二つの工業用水道を合わせまして約48キロメートルと非常に長いこと、断水による受水企業への影響を及ぼさない工法を必要とすること、また人家密集地の工事では現場の厳しい制約があることなど、全ての管路を更新するためには多くの時間と費用が必要となってまいります。

こうしたことから、老朽化対策や耐震化対策につきましては管路網全体におきまして、取組箇所を管路の経過年数や重要度などを総合的に評価し、緊急性のある箇所8.4キロメートルにつきまして順次、管路の更新に取り組んでおり、平成33年度の完成を目指しているところでございます。

また、中央構造線活断層帯付近では、吉野川北岸工業用水道の配水管が配管されておりますので、活断層地震発生時にずれが生じた場合にも対応できる復旧資材の備蓄を行っているところでございます。

今後とも工業用水道施設の耐震化を推進いたしまして、南海トラフ巨大地震をはじめとした大規模地震が発生した場合におきましても、工業用水が速やかに供給できるよう取り組んでまいりたいと考えております。

#### 眞貝委員

今の御答弁の中で、緊急性の高い管路8.4キロメートルの更新に取り組んでいるということでございます。

これを平成33年度までに完成させるということでございますが、平成34年度以降の管路の更新については、どのように進めていくのかお聞かせいただけますか。

#### 古井施設基盤整備室長

平成34年度以降の取組について御質問を頂きました。

現在、管路の更新につきましては先ほど御説明させていただきましたとおり、緊急性の高い8.4キロメートルの区間について工事を進めているところでございます。

平成34年度以降は、この次の段階の区間の更新が必要になることから、今年度、管路を掘削いたしまして、管の老朽度合いを確認する調査を行っているところでございます。

この調査結果や管路の経過年数、重要度、更には経営状況等を総合的に勘案し、整備計画を今後作成いたしまして、工業用水道事業の長期計画に組み込み、着実な整備が行えるように努めてまいりたいと考えております。

#### 眞貝委員

工業用水を利用する企業にとっては必要不可欠なものであると思います。

それにつきましても、企業局の健全な経営が大事かなと思っております。

健全な経営を維持しながら安定的な給水ができるよう、計画的に管路の更新を進めていただきたいと思います。

また、耐震化に併せまして、災害リスクに適切に対応するためには平時から速やかな復興に資する事前準備が必要だと思います。

工業用水道では吉野川北岸用水道の浄水場にある被災時の復旧拠点となるバックアップセンターや備蓄資材倉庫を整備するというところでありますが、その中身を教えてくださいませんか。

#### 古井施設基盤整備室長

バックアップセンターと資材倉庫の具体的な内容について御質問を頂きました。

企業局におきましては、直面する南海トラフ巨大地震や活断層地震に備えまして、施設の耐震化や管路の耐震補強対策に積極的に取り組んでいるところでございます。

併せまして、起こった災害にどう対処するかという事前準備も必要であると認識をしているところでございます。

東日本大震災におきましては、広域災害により流通経路が停止し復旧のための資材や建設重機、また非常用電源設備の事前調達、確保が必要であるという報告がされているところでございます。

そのため、復旧資材を保管する備蓄倉庫につきましては、平成23年度に1棟を建設いたしました。緊急な修繕工事に必要な管路やジョイント部分の資材はほとんどが注文生産になる特殊な資材で大型なものであることから、更に機動性を高めるために、もう1棟の建設が必要となっておりますので、今年度その建物の設計を行っているところでございます。

また現在、企業局の管理施設の拠点につきましては、徳島市新蔵町の総合管理事務所でございますが、被災時には現場により近い場所での前線復旧拠点が必要になりますことから、吉野川北岸工業用水の浄水場にごさいます管理棟を改装いたしましてバックアップセンターとして整備することといたしております。

このバックアップセンターにおきましては、停電時においても既存の太陽光発電施設と直結して非常用電源として確保し、夜間におきましても蓄電機能のある電気自動車を活用して電源を確保するなど、被災時の復旧拠点となるような整備を進めていく予定でございます。

今年度は、管理棟につきましては改修設計、また備蓄倉庫では詳細設計を行いまして、来年度からは改修工事に取り組んでまいりたいと考えております。

#### 眞貝委員

バックアップセンターの整備ですが、昨今新聞でも読んだのですが、最近では自然エネルギーを蓄電するというのがこれからの主流になるのではないかなど。そこで蓄電施設ができれば個人の電気自動車も蓄電にいけるという話も聞いておりますし、古いハイブリッド車の電池だけを取り出して、それを蓄電施設に使うという案も出ておったところであります。

企業局といたしましても、太陽光や水力発電所の自然エネルギーがあるということですので、やはり先々災害が起きたときに地元の人が活用しやすいようなことも今後考えていただけたらと思います。これを要望して終わらせてもらいます。

#### 岡本委員

少し勉強不足なんです。今見てて電気事業会計というのはいつもすごい良いのですが、3ページに営業外収益と雑収益があります。営業外収益の受取利息及び配当金は683万9,167円、これの内訳は19ページの真ん中、預金利息の分が242万5,974円、貸付金の利息が441万3,193円となっています。

これを平成29年度徳島県電気事業貸借対照表で言うと長期貸付金が40億5,527万円ぐらいいに対して441万3,193円と思いますが、その上の預金利息242万5,974円は正直少ないと思っております。これの元になる現金預金が3月31日現在で121億7,442万円と県の財政調整基金より多いのです。

今言いましたそのあたり、少し簡単でいいので説明してください。

#### 栗田経営企画戦略課長

平成29年度徳島県電気事業貸借対照表につきまして御質問いただきました。

まず、営業外収益で受取利息及び配当金683万9,167円の内訳の御質問を頂いたわけでご

ざいます。

これにつきましては、預金利息が242万5,974円、それとともに他会計の貸付金も利息というものがございます。その主な会計につきましては、市町村振興資金の特別会計、流域下水道特別会計、病院事業会計、あと企業局内でございますが工業用水道事業会計に電気事業から長期の貸付けを行っております。そういったものの合計、先ほどの預金利息と合わせまして683万9,167円という内訳。

（「その元になるのは何ですか」と言う者あり）

岡本委員

長期貸付金は40億5,527万円で、それに対する利息が441万円ぐらいでいいのですね。

（「そのとおりでございます」と言う者あり）

単純に割ったら利息が出てくる、そういう説明をしてくれたらいいのです。

栗田経営企画戦略課長

市町村振興資金貸付金特別会計ほか、他会計の貸付金につきましては、貸付けの年比率で高いもので0.7%から0.8%、それから低いもので0.03%、幅がありますがその範囲の中で長期の貸付けを行っております。

一方、預金利息でございますが、現在、市中金利は大体3か月もので0.01%と低い金利でございます。

現金預金につきましては、3か月に1回の金利引き合いで一番高い利率を提示してきた金融機関に預け入れをするという形で、平成29年度ではありませんが直近で0.03%の金利引き合いで運用している状況でございます。

市中金利は大きく変動しているわけではございませんので、おおむねこのような推移で、結果、先ほどのような利息になったという御理解を頂けたらと思います。

岡本委員

それでいいんですが、要するに3月31日で121億円ある。もう一回言うと財政調整基金より8億円ぐらい多いのです。

その額で言うと、バランスシートなので3月31日で捉えているから、1年間かどうかも分からないが、単純に121億円で利息が200万円ぐらいという理解でいいのですね。

（「はい」と言う者あり）

ということです。もうけているから良いと言えはいいが、121億円で何か少し考えたら一桁上がる。でもなかなかやり方が難しい。財政調整基金でもやってないので、そのあたりをどうかしたら多分一桁上がると思いますので何か考えてください。

もう一つ、3ページの平成29年度徳島県電気事業損益計算書の営業外収益に、受取利息及び配当金と雑収益というのがある。これが非常に分かりにくいというか、この内訳は19ページに出てて、その中で三つある固定資産売却収益等があるが、一番大きい額、その他雑収益1,117万3,436円とは何か。これ分かりにくいから説明してください。

栗田経営企画戦略課長

雑収益の内訳につきまして御質問を頂きました。

これにつきましては、児童手当の一般会計負担金が約680万円ございます。

それともう一つ、賞与引当金及び法定福利費の引当金の残額の戻入れがございましてその分が400万円余りございます。合わせまして1,136万6,763円といった内訳になっております。

#### 岡本委員

分かったが、こう上げるきまりになっているのか。説明してくれたら分かるが、パッと見たら分からない。南委員も言ったが、トータルで結構すごい額です。だから少し知恵を絞るとすごいお金が出てくる。バランスシートからすると多分3,500万円ぐらい、少し知恵をうまく絞ると出てくるかもしれない。けどもうけているからそこまで考えなくてもいいのだろうが、やっぱり一番お金を持っている所だから、こんな言い方は悪いがもうかっているがバランスシートの数字でいうと合わない。要するに流動資産の合計とそれに伴って入ってくる利息関係の雑収益というのが、企業で考えたら単純に合わないぐらい少ないのでまた考えてください。

せつくなので勝浦発電所、これ見た限り去年は余りできてないがどんなことをされたのか。

#### 片岡事業推進課長

平成29年度の勝浦発電所における修繕改良工事につきまして、改良工事はございませんが、エレベーターの保守業務や棚野ダムの自動制御装置の保守業務、そういった修繕工事がメインで合計640万円。委託で棚野ダムの深淺測量等がございまして、委託を含めた額でいいますと1,400万円弱という状況でございます。

#### 岡本委員

企業局はたくさんもうけている、何かあの辺でいろいろしてくれることがあったら言ってもよいのかとあの辺りの人は言っています。近い人は勝浦発電所へ行くかも分からないが、そんなことが時々耳に入ってきます。企業局だからできるものとできないものがあるが結構そんなの言ってくる人がいます。

今年は特に少なかったと思うが、今後、勝浦発電所に対するお金の入れ方はどんな感じですか。

#### 片岡事業推進課長

勝浦発電所における今後の投資計画ということでございます。

先ほど、南委員からの御指摘もございましたとおり、電力の安定供給を維持するためには設備の状況であるとか業務量、所要資金等を中長期的に把握しつつ、計画的に修繕改良工事を行っていくことが重要でございます。

そこで、10年間の修繕改良工事の計画であります長期工事計画というのを策定しております。それを隔年で見直しをしております。

現在の工事計画は、平成28年度に策定したものでございまして、平成29年度から平成38

年度までの修繕改良工事をまとめております。それによりますと、勝浦発電所関係の改良工事が合計で3億3,500万円余り、修繕工事が4億5,000万円余りでございます。

その主なものは平成38年度に水車発電機のオーバーホールを予定しており、これが2億円強という状況でございます。

#### 岡本委員

今の答弁でいいんですが、計画したのが平成28年でいろいろと要望がまた変わってくるので、そこは臨機応変にお願いしておきたいと思っております。

今までも例えば、今年4月4日には台湾から桜祭りとかに来た、その川のすぐ上が勝浦発電所なのです。川を美しくする会にも御協力いただいて有り難いなと思っております。今、思い出したが、この間の代表質問で言わせてもらった恐竜の里は正にここなんです。皆さん余り知らないからあえて言うのですが、恐竜の里は勝浦発電所のすぐ歩いていける所なんです。かなりの方が来そうなので、多分、駐車場がなくなるのです。あの辺りを何かで改良しないと近々もたなくなります。知事が答弁したように、あそこをかなりの物にしようとなってますが、もう一回言うけど、勝浦発電所の所を通らないとそこも行けない。あの辺は何かにぎわいそうなので、勝浦発電所を邪魔したらいけないが、何かそれなりの工夫をお願いして終わります。

#### 寺井委員長

ほかに質疑はございませんか。

（「なし」と言う者あり）

それではこれをもって質疑を終わります。

これより、採決に入ります。

お諮りいたします。

ただいま審査いたしました、企業局関係の付託議案については、可決及び認定すべきものと決定することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

御異議なしと認めます。

よって、以上の4件は可決及び認定すべきものと決定いたしました。

#### 【議案の審査結果】

原案のとおり可決及び認定すべきもの（簡易採決）

平成29年度徳島県電気事業会計剰余金の処分及び決算の認定について

平成29年度徳島県工業用水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について

平成29年度徳島県土地造成事業会計剰余金の処分及び決算の認定について

平成29年度徳島県駐車場事業会計剰余金の処分及び決算の認定について

これをもって、企業局関係の審査を終わります。

#### 東端企業局長



本日は、企業局の業務運営につきまして様々な観点から貴重な御意見、御指導を賜りまして、まことにありがとうございました。

企業局におきましては、地方公営企業といたしまして、経済性を最大限に発揮して、なお一層の経営努力を図ってまいりますとともに、その本来の目的でもございます公共の福祉の増進に努めてまいりたいと考えておりますので、今後とも皆様方のよろしく御指導を賜りますようお願い申し上げます。

本日は、どうもありがとうございました。

寺井委員長

本日の委員会は、これをもって閉会いたします。（11時10分）